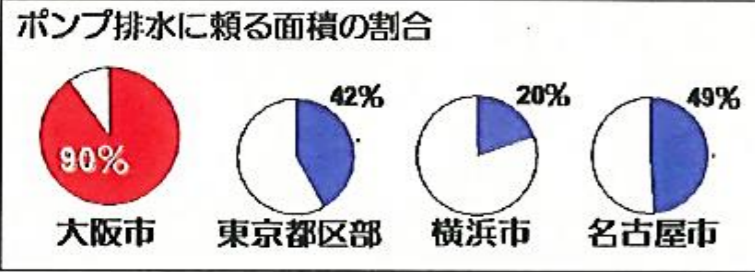


大阪市 下水道局視察

大阪市の浸水対策について

＜ポンプ排水区域面積の割合(他都市との比較)＞



▼大阪市は他都市よりポンプ排水に頼る面積の割合が大きい。
 ▼市の90%は地盤が低く、雨に弱い地形となっており、下水道幹線の建設やポンプ施設の増設を進めています。



合流式下水道の改善について

処理区画の約96%が合流式下水道

合流式下水道では、雨の強さが一定の水準を超えると雨水とともに汚水の一部やゴミ等が河川などに直接放流され、水質汚濁の原因のひとつになっていました。このため、より清らかな水環境を創り出すために、降雨初期の汚れた雨水やごみなどを貯留し、未処理下水のまま川に流れだすことを防ぎ、降雨の後に貯留した雨水を下水処理場へ送水し、きれいな水に処理をして川へ放流します。

・**大阪市** 1時間60mmまでは汚れた水を貯留できます。豪雨以外は汚水が川に流れない為、川は自然にきれいになっていくと考えます。

・**名古屋市** 1時間2～3mmの雨量を超すと雨水吐き等より未処理下水が川へ流れ込むため川が汚れてしまいます。100年経っても変わらないと考えます。

＜市内には、雨水吐き口が数多くある＞



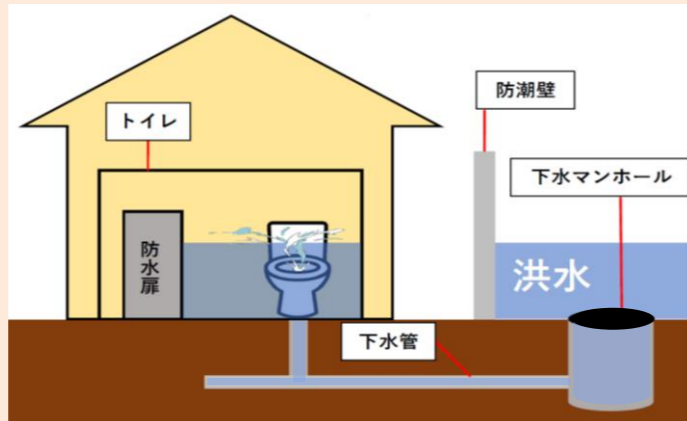
晴天時の合流式下水道の吐き口



雨天時の合流式下水道の吐き口



海老江下水処理場にあるトイレの出入口。
 大雨が降った時に下水管を通してトイレから水が溢れだした時に、この防水扉を閉めて建物内に水が流れ出すのを止める役割を果たしています。



石井国土交通大臣 名古屋視察同行

▼11月24日(土)、石井国土交通大臣が名古屋中央雨水調整池、名古屋城本丸御殿、堀川(納屋橋地区)などの整備状況を視察、同行致しました。

①リニア中央新幹線名古屋駅

リニア中央新幹線名古屋駅の工事状況を視察

①リニア中央新幹線名古屋駅



②名古屋中央雨水調整池



②名古屋中央雨水調整池

名古屋駅周辺地域を浸水から守るために実施中の緊急雨水整備事業の進捗状況を視察

▼名古屋中央雨水調整池は、貯留量約10万4千立方メートルで、事業費は約210億円を見込んでいます。

▼広川ポンプ所は、排水量毎秒約13立方メートルの施設規模となっており、事業費は約200億円となる見込みです。

▼事業期間は全体で平成26年度より着手し、平成36年度の完了を予定しています。

▼名古屋中央雨水調整池は、内径5.75m、延長5kmのトンネルを地下約50mのところに、シールド工法にて築造しています。

H20年に議会質問し、その後数年に渡って取組んできたことが実現されています！

③名古屋城本丸御殿

今年6月に復元・公開された名古屋城本丸御殿を視察

③名古屋城本丸御殿



④堀川(納屋橋地)



④堀川(納屋橋地区)

堀川を中心とした水辺空間の利用や水質改善の取組について視察

南区区民まつりに参加

▼11月18日(日) 日本ガイシスポーツプラザにて開催された、第34回南区区民まつりに参加しました。



名古屋市戦没者追悼式並びに遺族大会参列

▼11月19日(月) アートピアホールにて、第64回名古屋市戦没者追悼式並びに遺族大会に参列し、戦没者のご冥福と平和をご祈念し、献花させて頂きました。